

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月27日更新

事務事業名		認知症総合支援事業		マニフェスト 関連		全庁横断 課題関連		集中改革 プラン関連	
総合 計画 体系	政 策	2 福祉の健康		所属部		健康福祉部		課長名	
	施 策	7 高齢者の自立と支援体制の充実		所属課		高齢者支援課		担当者名	
	施策の柱	27 高齢者の介護予防の推進		所属班		包括支援センター班		(内線)	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	根拠 法令	認知症地域支援体制構築等推進事業実施要綱	
		介護	11	3	6	11427		成果優先度評価結果	
								コスト削減優先度評価結果	
終了、開始年度		□ 28年度で終了 □ 28年度から開始		事業期間		□ 単年度のみ □ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) □ 期間限定複数年度 (年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	地域において認知症高齢者と家族等を支えるためには、認知症への対応を行なうマンパワーや拠点などの「地域資源」をネットワーク化し、相互に連携しながら有効な支援を行なう体制づくりが必要であることから、地域における支援体制を構築し、その成果を各地に普及させることを目的に実施する事業である。具体的には専門のコーディネーターや認知症地域支援推進員を配置し、任意事業（認知症の理解を深める講演会・見守りネットワーク作り等）を実施している。認知症支援体制の整備については熊本県が重点的に取り組んでいる事業の一つでもある。合志市でも高齢化は進み、認知症関連の相談も増えてきている現状がある。そのため平成21年度～22年度行った県のモデル事業を足がかりに認知症に対する市民の意識を高め、地域での見守りネットワークの構築等を整備している。認知症は誰でもなりうる病気であり、県内でも5万人（平成22年）以上の人が認知症であると推計されており、今後とも増加することが予想されている。また、核家族化の増加に伴い、認知症を支えるマンパワーの不足が懸念されている。住み慣れた地域で継続して暮らしていくことができるよう地域全体で認知症高齢者とその家族を支援する体制の整備を図っていく必要がある。
【業務の流れ】	認知症ネットワーク構築のための体験会開催とその準備のための実行委員会開催。 認知症家族のつどいやカフェの実施における支援。 認知症地域支援推進員の配置、コーディネーターの配置、ささえ愛隊研修の開催・活動の支援。認知症啓発のためのシンポジウムや研修会の開催。キャラバンメイトの養成、認知症サポーター養成講座における準備や講座の実施。 認知症地域支援体制構築等推進事業として社協に委託。 今年度から認知症初期支援チームによる訪問支援を開始。
【主な予算費目】	職員手当等、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料
【意見や要望】	認知症高齢者に対応するための体験会やこれまで経年的に実施してきた徘徊模擬訓練は「継続して実施してほしい」、「区民への周知を徹底してほしい」「若年層の参加をもう少し増やしてほしい」という意見があった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
認知症の方を地域でささえあう体験会を実施。家族のつどいやカフェ、認知症サポーター養成講座を開催した。また、認知症啓発のためののほり旗を立て広報活動を行った。		認知症徘徊模擬訓練や認知症家族のつどい・カフェを開催予定。認知症サポーター養成講座を開催し、マンパワーを活かした地域ネットワークの構築、認知症対策に努める。また、認知症初期支援チームによる訪問支援を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア ささえ愛隊活動の実施回数	回	職員手当・旅費の減額による減。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	認知症高齢者を取り巻く家族、それを支える地域の人。	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		→ ア 認知症見守り(ささえ愛隊)登録者数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	認知症になっても地域で安心して暮らすことができる。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		→ ア 年度毎認知症サポーター養成講座修了者数
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
認知症についての知識をもつ人が増えることが認知症高齢者やその家族が地域で安心して暮らすことができるようになるため。 目標値の設定根拠は、今まで受講していない人が対象となるため、新規養成予定数とした。		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
① 活動指標	ア回		6	6	9	4	9	9	9	9	
② 対象指標	アイ人		520	545	600	569	600	600	600	600	
③ 成果指標	アイ人		1,043	888	1,100	825	1,100	1,100	1,100	1,100	
投資 事業 費 入 量 人 件 費	財源 内 訳	国庫支出金	千円		1,200	1,082	1,122	1,150	1,150	1,150	
		都道府県支出金	千円		600	541	561	575	575	575	
		地方債	千円								
		その他	千円		678	611	634	610	610	610	
		繰入金	千円		600	541	561				
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	0	0	3,078	2,775	2,878	2,905	2,905	2,905
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	199	131	110	96	96	96
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	199	131	110	0	0	0
	正規職員従事人数	人	0	4	3	5	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時間	0	1,280	600	670	600	600	600	600
	(B)人件費計	千円	0	4,752	2,390	0	2,390	2,390	2,390	2,390	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	4,752	5,468	2,775	5,268	5,295	5,295	5,295	

事務事業名	認知症総合支援事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 各種教室を通年で実施しており、認知症への理解が深まりつつあると考えられる。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 重点的に認知症事業に取り組むことで、サポーターや地域への理解を深めることができるとともに認知症に対する理解度は高まり目標達成することは可能である。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 現在、まだ認知症への対応を行うマンパワーや拠点などの「地域資源」のネットワーク化を図っている途中である。今後市全域に構築されることで、より認知症高齢者やその家族が安心して暮らすことを目指す。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業がないため、事業の統廃合が難しい。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 講座のための需用費や、ネットワーク構築のための委託料などの予算がほとんどであり、削減の余地がない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 この事業を実施するために、必要最低限で行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 法の趣旨に基づく事業であり、市が介護保険を適正に運営するために、保険者として関与すべき事業であるため、適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 法の趣旨に基づく事業であり、保険者として関与すべき事業であるため、適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

繰り返し講座を行うことで、認知症への予防・理解が徐々に深まっている。年々教室開催依頼件数、サポーター登録者、ささえ愛隊登録者数も増加しており、今後も継続して行うことで、地域住民による見守り、支え合う体制が根付くように推進したい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 認知症への理解をさらに深めてもらうよう、様々な事業を展開していく。また、認知症地域支援推進員とも協力し、認知症の方が安心して生活できるような地域づくりを推進していく。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 あらゆる年代に対して、認知症に関する理解を図っていく必要がある。認知症サポーター養成講座等で若い年齢層に対しても意識が高まうように啓発していく。																							